

## 第 38 回「大塚阿波踊り」へ参加しました。

豊島区中小企業診断士会 井手上 悟

平成 22 年 8 月 26 日(木)、第 38 回「大塚阿波踊り大会」に豊島区中小企業診断士会（西川洋一会長）および中小企業診断協会東京支部中村支部長の参加を得て診断士メンバー 16 名、社会保険労務士 1 名、弁護士メンバー 10 名の参加を得て総勢 26 名（リーダーは大槻阿波踊り実行委員長）が豊島区商連へ参加させていただきました。平成 18 年より毎回参加しており、今回で 5 回目となります。年々踊りも上達しているとの思い込みもありますが、楽しむことに徹しています。



大塚阿波踊りとは

天祖神社の縁日や、料亭の遊客で終日賑わいを見せていた戦前の姿を取り戻そうと、昭和 46 年に地元の商店街の主催で始められました。現在では高円寺や三鷹に並び都内屈指の規模と歴史を誇っています。毎年 8 月下旬に行われており、毎年 1,000 人以上の踊り手が参加し熱気あふれる街となります。今年も 13 連が参加し十文字学園吹奏楽部のパレードより始まり、開会式、2 回目のパレードに続き阿波踊りのスタートとなりました。

17:10 より大塚駅南口をスタートに踊り開始、AゾーンからDゾーンまでの4ゾーンに区

分された区域でおよそ 30 分をかけて流し踊りや組踊りを披露していきます。最終連の踊り終わりは 9 時ごろとなり、13 連のうち 10 連が 2 度の踊りを披露していきます。

まずは練習を

今年は 8 月に 4 回の事前練習日程が生まれ、内 2 回の練習に診断士グループは参加しました。商店街の方々がお店を終えた後集まってこられ 18:30 頃より準備体操より始めます。まずは踊りの基本の形をマスターしますが、なかなか思ったようにはいかないものです。特に初めての場合は足と手の動きがぎこちなく、足に気をとられると手がおろそかになり手に気をとられると足がおろそかになりとバラバラの状態が続きロボットのような動きとなってしまいます。一方、商店街の女将さんで構成される女踊りの方々は 10 年以上の経験が美しい形となって皆さん揃った踊りがすぐに出来ています。それでも練習終了間際にはどうか見られる姿にはなってきました。あとは各人の自主練習あるのみです。練習後の翌日は日頃の運動不足により体のあちこちが痛くなっています。練習後の反省会も欠かさず行われうまく踊るにはどうすればなどの会話で盛り上がっています。

いよいよ本番へ

当日は、午後 5 時ごろより集合場所へ集まり、法被、半たこ、へ着替えをします。半たこは毎回前と後ろを間違う方がいて笑いを誘っています。帯や、手ぬぐいはいつも豊島区商連の木崎副会長に着付けをしていただき、りりしく仕上げられています。揃った姿は上の写真でご確認ください。



踊る前の最終確認では両手の上げる位置や形にこだわって行っています。





豊島区商連は総勢 120 名の連で今年度の連の中で最大規模の連となっています。診断士グループは中村東京支部長の初参加を頂き、6 士業で知り合った弁護士、社労士の方と一緒に踊りに参加しました。

「ヤットサー！」「ヤット」「ヤット」の掛け声とともに、踊る阿呆に見る阿呆同じ阿呆なら踊らなそんなと踊る楽しさに体も自然とついていきます。よく見ていると各人の足がそろってないなど、一体練習の不足が見え隠れしていますが、各人が楽しければそれが大事ということで・・・。

最後の打ち上げには商店街の方々とご一緒させていただき楽しい1日を過ごさせていただきました。最初は練習だけに参加し本番は来ないなどといった方も、最後には楽しい踊りの魅力に魅了され次回も参加すると張り切っていました。



毎年、診断士の踊り手も増加しており来年度はあなたも一緒にいかがですか？  
病み付きになること間違い無しです。